

ĐỐI CHIẾU ẨN DỤ VÀ HOÁN DỤ BIỂU ĐẠT SỰ TỨC GIẬN TRONG TIẾNG NHẬT VÀ TIẾNG VIỆT TỪ GÓC ĐỘ NGÔN NGỮ HỌC TRI NHẬN

Nghiêm Hồng Vân*

Ẩn dụ và hoán dụ là những khái niệm quan trọng trong ngôn ngữ học tri nhận. Chúng đóng vai trò hết sức quan trọng trong quá trình nhận thức của con người và các phạm trù trừu tượng như cảm xúc... thường được diễn đạt qua phương thức ẩn dụ hoặc hoán dụ. Ẩn dụ và hoán dụ bắt nguồn từ kinh nghiệm nghiệm thân và chịu ảnh hưởng của mô hình văn hóa. Trong phạm vi bài báo này, chủ yếu chúng tôi sử dụng một số ẩn dụ ý niệm như “TỨC GIẬN LÀ NHIỆT”, “TỨC GIẬN LÀ LỬA”, “TỨC GIẬN LÀ CHẤT NÓNG LỎNG TRONG BÌNH CHỨA”, “TỨC GIẬN LÀ ĐỘNG VẬT NGUY HIỂM”, “TỨC GIẬN LÀ ĐỐI THỦ”, “TỨC GIẬN LÀ GÁNH NẶNG”... được đề xướng trong Lakoff và Kovecses (1987) để so sánh, đối chiếu ẩn dụ ý niệm biểu thị cảm xúc “tức giận” được thể hiện như thế nào trong tiếng Nhật và tiếng Việt. Kết quả là, ẩn dụ ý niệm “TỨC GIẬN LÀ LỬA” và “TỨC GIẬN LÀ CHẤT LỎNG NÓNG TRONG VẬT CHỨA” đều tồn tại trong cả tiếng Nhật và tiếng Việt. Tuy nhiên, Tiếng Việt còn có một ẩn dụ khác là TỨC GIẬN LÀ KHÍ NÉN mà chúng tôi không quan sát thấy phiên bản này trong tiếng Nhật. Ngoài ra, chúng tôi còn chỉ ra một số điểm tương đồng và khác biệt khác trong ẩn dụ và hoán dụ ý niệm biểu thị cảm xúc tức giận trong hai thứ tiếng.

Từ khóa: ẩn dụ ý niệm, hoán dụ ý niệm, cảm xúc, tức giận, tiếng Nhật, tiếng Việt.

Metaphor and metonymy are important concepts in the cognitive linguistics. They play vital roles in human's conceptualization and such abstract categories as emotion are often expressed through metaphor and metonymy. These figures of speech are derived from personal experience and influenced by cultural models. In this paper, such conceptual metaphors of anger as “heat”, “heat of a fluid in a container”, “fire”, “dangerous animal”, “opponent”, “burden”... proposed by Lakoff and Kovecses (1987), are used to compare and contrast Japanese and Vietnamese conceptual metaphors of anger. It is found that both in Japanese and Vietnamese, fire and the heat of a fluid in a container can represent anger. However, anger can also be understood as “KHÍ-気” in Vietnamese, which cannot be found in Japanese. Besides, the article also pointed out some other similarities and differences in the conceptual metaphor and metonymy of anger in the two languages.

Key words: conceptual metaphor, conceptual metonymy, emotion, anger, Japanese, Vietnamese.

日本語とベトナム語における怒りのメタファーやメトニミーについて －認知言語学的観点から－

0. はじめに

感情は人間の最も普遍的且つ重要な経験と言える。人間の基本感情としてよく

あげられているのは、喜び・驚き・怒り・恐れ・嫌悪・悲しみである。では、日常何気なく使用されている感情表現である「喜び」「驚き」「怒り」「恐れ」「嫌悪」「悲しみ」などを示す感情表現

* ThS., Khoa tiếng Nhật, Trường Đại học Hà Nội

は、言語間ではどの程度の普遍性が認められるのだろうか。本稿は、感情表現の中で「怒り」に分類される表現に限って、日本語とベトナム語での違いを探る試みをする。

本稿の目的は、日本語とベトナム語における怒りの概念がメタファーやメトニミーなどによっていかに表現されるかを明確にすることによって、言語や文化などの面から、怒りに関する表現の異同の原因の追究を試みることである。

1. 本稿において扱われた定義及び論説

1.1. メタファーとメトニミーの定義

① 初山 (1997) (2002)

メタファー：二つの事物・概念の何らかの類似性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

メトニミー：二つの事物の外界における隣接性、さらに広く二つの事物・概念の思考内・概念上の関連性に基づいて、一方の事物・概念を表す形式を用いて、他方の事物・概念を表すという比喩。

② 瀬戸 (1997a)

メタファー：意味が特定の領域 (domain) を超えて別な領域に「飛ぶ」

メトニミー：世界の中で指示対象が「横すべりする」

③ 小池 (1997)

メタファー：ある物事X を表現するのに、それと類似した別の物事Y を代わりに用いる比喩。

メトニミー：あるもののよくわかっていない側面や捉えやすい側面を取り上げて、そのものの全体を表したり、代替したりするものである。

小池 (1997) は、メタファーの例として、「あの人はバラの花だ。」を挙げ、美しさという類似点で、X (あの人) をY (バラの花) で表現すると解釈した。そして、メトニミーの例として、「あの茶髪は公園で騒いでいる。」を挙げ、髪の色 (茶髪) で茶髪の持ち主である人を指すと解釈した。つまり、メタファーとメトニミーは、モノとモノとの関係の仕方が異なると強調し、メタファーには二つの概念領域があり、一方が他方を介して理解され、メトニミーには、二つのものの写像や結合が同じ概念領域にあるという意味で、概念領域が一つしかないとして明確に述べた。

以上を踏まえ、本稿では、以下にメタファーとメトニミーの定義として代案を示しておく。

メタファーとは、ある概念領域における概念またはイメージと結びつく推論形式を、別の概念領域に転用する比喩である。

メトニミーとは、ある事象に対し、隣接性のある他の事象を参照に、そこから対象事象に到達する比喩である。

1.2. 怒りの定義

怒りは、基本感情と呼ばれる驚き、喜び、恐れ、嫌悪、悲しみなどのうちの一つである。なぜ人は怒りを持つのか。このような感情が人の心に沸き起こる理由は何であろうか。

『ベトナム語辞典』では、怒りとは「不当なものによって身体を傷付けられるが、どうしても反抗できないときに起こされた感情のいらだち」¹と定義される。

¹ 原文は「có cảm giác rất bức bối, khó chịu khi có điều sai trái, vô lý nào đó tác động đến mình mà

『日本国語大辞典』では、怒りとは「自分の望む方向に反するものの存在によって起こされた感情のいらだち」と定義されている。

『例解新日本語辞典』では、怒りとは「気に入らないことがあって、我慢できない気持ちになる」と定義されている。

湯川 (2008) では、怒りとは、自己もしくは社会への、不当なもしくは故意による（と認知される）、物理的もしくは心理的な侵害に対する、自己防衛もしくは社会維持のために喚起された、心身の準備状態であると定義している。

和田 (2010) では、怒りとは、「欲求充足が阻止されたときにその阻害要因に対して生じるもの』と定義している。

以上を踏まえ、本稿では、怒りを「自分への侵害に対するいらだち、腹立ち、激しい憤りなどの感情である」と広く定義しておく。

1.3. Lakoff & Kövecses (1987)

怒りの表現と比喩との関わりに関して、認知言語学の観点から分析された研究の代表的なものとして Lakoff & Kövecses (1987) がある。Lakoff & Kövecses (1987) は米語に関する考察であり、レイコフ & ジョンソン (1986) が示した「メタファーによって理解可能な表現を体系化するための手法」を用いて、「感情」の概念構造を考察した。

Lakoff & Kövecses (1987) では、怒りに関する様々な表現（多くは慣用表現）は、ばらばらに存在するものではなく、一貫した概念構造を持ち、その概念構造が本質的にメタファーから成り立っているこ

とが示されている。具体的には、Lakoff & Kövecses (1987) は、怒りのメタファーとメトニミーを以下のようにまとめた。

怒りのメトニミー

- The physiological effects of an emotion stand for the emotion.
(ある感情の生理的な反応はその感情を代表する)
- Insane behavior stands for anger.
(生気でないふるまいは怒りを表現する)
- Aggressive verbal behavior stands for anger.
(攻撃的言葉のふるまいは怒りを表現する)

怒りのメタファー

- Anger is heat. (怒りは熱さである)
- Anger is fire. (怒りは火である)
- The body is a container for the emotions. (体は感情のための容器である)
- Anger is the heat of a fluid in a container. (怒りは容器内の熱い流体である)
- Anger is insanity. (怒りは狂気である)
- Anger is an opponent (in a struggle). (怒りは闘いにおいて敵である)
- Anger is a dangerous animal. (怒りは危険な動物である)
- Anger is a burden. (怒りは重荷である)

本稿では、上記のようなメタファーやメトニミーの手法を使って、具体例を挙

mình thấy đành chịu, không làm gì được」となり、筆者はその訳文をつける

げながら、日越両言語における怒りに関する表現を分析していきたい。

2. データ概要

本稿で利用する文例は、以下の辞書からの引用（それぞれの略語は以下の通り）に加え、日本語母語話者のコンサルタント²にチェックを受けた筆者自身による作例(HV)も含む。

辞典 感情表現辞典 (中村明 1993) (KJ)

ベトナムのことわざ辞典 (TN)

3. 日本語とベトナム語における怒りの表現の共通点

3.1. 生理的メトニミー

前節で述べたように、Lakoff & Kövecses (1987) は米語に関する考察であり、レイコフ&ジョンソン (1986) が示した「メタファーによって理解可能な表現を体系化するための手法」を用いて、「感情」の概念構造を考察した。レイコフらはこの手法で「身体」という具体的な概念領域を感情という抽象的な概念領域に写像することで、一見概念構造を持っていないかに見える「感情」を構造化しようと試みたのである。レイコフらは「心理テストによって身体的な症状と感情の関係（どのような感情が原因で、どのような生理的変化として起こるか）を述べ、「The physiological effects of an emotion stand for the emotion (ある感情の生理的な反応はその感情を代表する)」という概念メトニミーを提唱した。それによって、日本語話者とベトナム語話者の生理的な反応は互いに類似していて、その怒りの表現もある程度類似していることが伺える。ここでは、五つの概念メトニミーを使って比較考察を行う。

① Body heat (体温の上昇)

(1) 怒りで体が熱くなる。(KJ)

(2) Nóng mặt. (顔が熱くなる＝顔がほてる)(HV)

② Internal pressure (内圧)

(3) 頭に血圧が上がる。(KJ)

(4) Túc hộc máu. (血を吐き出すほど怒る)(TN)

③ Redness in face and neck area (顔と首周辺の赤み)

(5) 彼は怒りで赤くなった。(HV)

(6) Đỏ mặt tía tai. (顔が赤く、耳が紫色になっている)(TN)

④ Agitation (動揺)

(7) 怒りに毛が逆立つ。(KJ)

(8) 怒りに全身がわなわなと震える。(HV)

(9) Mắt long sòng sọc (目をむいて怒る)(TN)

(10) Chau mày (眉をひそめる／顔をしかめる)(HV)

(11) Tóc dựng đứng lên (髪が逆立つ)(HV)

(12) Khoa tay múa chân (手足をばたつかせて怒る)(TN)

(13) Giọng rít lên (声が上擦る)(HV)

(14) Dậm chân thành thịch (地団太踏んで怒る)(HV)

(15) Nghiến răng trèo trẹo (ぎしぎしと歯ぎしりして怒る)(TN)

⑤ Interference with accurate perception (正確な認識に対する干渉)

(16) 自分自身を見失う怒り。(KJ)

² 40歳、男性、東京出身

(17) 怒り狂う (狂い怒る) (KJ)

(18) 怒りで前後の見境がつかない。
(HV)

(19) Con giận làm anh ấy trở nên mù quáng. (怒りで後先見えなくなる) (HV)

(20) Quá tức tối, mắt tôi tối sầm, không thấy gì nữa cả. (怒りで目の前が真っ暗になる) (HV)

上記の例から、口越両言語は、体温の上昇、内圧、顔と首周辺の赤みなどの生理的な反応と、動揺や正確な認識に対する干渉といったような身体的経験をもとに怒りの概念を認識するという共通点を持っていることが分かる。日本とベトナムは、文化が違っていても、怒りに関する表現にはある程度普遍性が見られると思われる。

3.2. 行動的メトニミー

行動的メトニミーの比較に関しては、以下の2点が挙げられる。

① Insane behavior stands for anger. (正気でないふるまいは怒りを表現する。)

(21) 気が触れる。 (KJ)

(22) 物を投げつけたい怒り。 (HV)

(23) Ra lờm vào nguyệt. (TN)

(出ていく時にも入ってきた時にも睨み目で見ると怒りをあらわにする)

② Aggressive verbal behavior stands for anger. (攻撃的ことばのふるまいは怒りを表現する)

(24) 口汚い言葉を吐く。 (KJ)

(25) そんなにがみがみ言わないでください。 (HV)

(26) Trưởng phòng tôi lúc nào cũng cần nhần, gắt gỏng. (HV)

(うちの課長はいつもがみがみとうるさい)

3.3. 概念メタファー

概念メタファーとは、認知言語学の用語で、「ある概念領域を別の概念領域を用いて理解する事」と定義される。概念メタファーにおける考察は以下の4点にまとめられる。

3.3.1. Anger is heat (怒りは熱さである。)

怒りは人間の原初的な感情のひとつで、様々な要因・理由で起きるもので、例えば目的を達成できない時、身体を傷つけられた時、侮辱された時などに起きるものであり、多様なメタファー表現を持つ概念である。生理的影響の文化モデル、特に熱を強調する部分は怒りの最も一般的なメタファーの基礎を形成する。(Lakoff & Kövecses 1987) は、怒りは熱である と提唱し、そして、その熱は、火 (fire) と液体 (fluid) と二分される。日本語とベトナム語の共通する部分は Anger is fire (怒りは火である) と Anger is the heat of a fluid in a container (怒りは容器内の熱い流体である) である。

1) Anger is fire (怒りは火である)

次 (27) から (35) が示すように、日越両言語において怒りはいずれも「火」という具象性の高い概念を通して理解される。

(27) 怒りが燃えだす／燃え上がる。
(KJ)

(28) 怒りの炎がめらめらと燃える。
(HV)

(29) 怒りに油を注ぐ。 (KJ)

(30) 怒りの火を消す。 (KJ)

(31) Trong lòng nó nhen nhóm nỗi giận hờn người mẹ. (HV)

(彼女の心にお母さんに対する怒りの炎が燃え立つ)

(32) Lòng nó hùng hực/âm i lửa cháy. (HV)

(あいつの心は火が燃えているようにカーッとなる)

(33) Lửa giận ngút trời. (怒りの火が空まで立ち込めている) (HV)

(34) Đổ dầu vào lửa. (怒りに油を注ぐ) (TN)

(35) Hạ hỏa đi. (火を弱くしなさい) (HV)

上の例から分かるように、日本語では火の発生（燃えだす）、持続（燃え上が

る）、消滅（消す）で怒りを概念化している。また、「怒りの炎がめらめらと燃える」など、火の強度によって、怒りが概念化される表現も見られる。一方、ベトナム語では火の発生 (Lửa giận nhen nhóm、怒りの炎が燃え立つ) 火の高度 (Lửa giận ngút trời、火の火が空まで立ち込める)、火の強度 (Lòng nó hùng hực/ âm i lửa、火がぼうぼうと／ちろちろと燃えている)、火をコントロールとしようとする (Hạ hỏa、火を弱くする)、火をコントロールできない (Không thể hạ hỏa、火を弱くすることができない) によって、怒りの発生、燃え上がり、強度などをすべて火で概念化している。以上をまとめると、具体的には、表1の通りである。

表1：日本語とベトナム語における起点領域「火」を通して概念化される怒りの表現の比較

起点領域：火	目標領域：怒り	
	日本語	ベトナム語
火の発生	怒りが燃えだす	Lửa giận nhen nhóm
火の高度		Lửa giận ngút trời.
火の強度	怒りの炎がぼうぼうと／めらめらと／ちろちろと燃える	Lòng nó hùng hực lửa. Lửa giận âm i trong lòng nó.
火に油を入れる	怒りに油を注ぐ	Đổ thêm dầu vào lửa
火をコントロールしようとする		Hạ hỏa
火をコントロールできない		Không thể hạ hỏa.
火が消される	怒りの火を消す	

表1から、日本語では、怒りを表すのに、「火の高度」「火をコントロールしようとする、火をコントロールできない」というような火を使った表現がないのは、怒りは火であるという概念メタファーはベトナム語より薄いことを示している。その代りに、日本語では「火をコ

ントロールしようとする」から「火をコントロールできない」までのそれぞれの空欄には、「怒りを抑える」、「怒りを増幅させる」、「腹の虫が治まらない」というような「火」に関わらない表現が用いられる。

2) Anger is the heat of a fluid in a container (怒りは容器内の熱い流体である)

日本語もベトナム語も英語と同じように Anger is the heat of a fluid in a container といった怒りのメタファーが存在し、このメタファーにおける言葉の使い方が例 (36)~(41) から分かるようにほぼ一致していることが分かる。

(36) 怒りが湧き出す。(KJ)

(37) 怒りが激しい波のように全身に広がる。(HV)

(38) 頭から湯気を立てる。(KJ)

(39) Điều đó khiến nó sôi máu. (そのことが彼の血を沸騰させた) (HV)

(40) Tức ứa máu (血が出るほど怒った) (TN)

(41) Bà ta trút giận lên con gái. (彼女は娘さんに怒りを注ぐ) (HV)

3.3.2. Anger is insanity (怒りは狂気である。)

「怒りは一時の狂気である」という言い方がある。つまり、怒りは理性を狂わせる、それゆえ最も非合理的な、あるいは反理性的な感情である。「怒りに狂う」「気が狂う怒り」のような日本語における表現は、怒りの感情に満ちた心が短期間狂っているものとして造形される様を表している。ベトナム語においても、以下のような表現が観察される。

(42) Tiếng ồn ào khiến tôi phát điên lên. (騒音は私を狂わせた) (HV)

(43) Hắn cáu điên lên vì người yêu lại không trả lời điện thoại. (彼女がまた電話に出ないことが彼を怒り狂わせた) (HV)

3.3.3. Anger is a dangerous animal (怒りは危険な動物である。)

人間は、感情と理性を持っているため、最上位の動物とされている。が、感情に支配されると、人間は理性を失い、普段しない行動や行為をしてしまう恐れがある。つまり、怒ると、人間は自分及び自分の行為をコントロールすることができなくなってしまい、怒っているときの兇暴的且つ攻撃的な行為は人間の自己制御を困難にし、動物のように本能的に振舞ってしまう。そのため、「怒り」という概念は「危険な動物」という概念を通して理解されうる。下記の例 (44)~(46) における「這う」「牙を出す」「唸る」などの言葉は動物の行為を表すものであろう。

(44) すざましい怒りが眉のあたりを這う。(HV)

(45) Hắn gầm lên (彼が唸った) (HV)

(46) Hắn bắt đầu nhe nanh gầm gừ. (彼は牙を出し、唸り始めた) (HV)

3.3.4. Anger is a burden (怒りは重荷である。)

例 (47) と (48) のように、怒りはその感情を持っている者にとって一つの重荷であると表されている。Anger is a burden (怒りは重荷である) という概念メタファーは両言語において観察される。

(47) 怒ったら気持ちが軽くなった。(HV)

(48) Ông ấy ôm giận trong lòng. (は怒りを抱いている) (HV)

4. 日本語とベトナム語における怒りの表現の相違点

日本語とベトナム語における怒りの概念メタファーは類似点が見られると同時に

に、相違点もあることが伺える。具体的には、以下の通りである。

4.1. ベトナム語にしか見られない「怒りは容器内の熱いKhí (気)」というメタファー

3.3.1. の2) で述べたように、日本語もベトナム語も英語と同じように「Anger is the heat of a fluid in a container (怒りは容器内の熱い流体である)」といった怒りのメタファーが存在しているが、ベトナム語の場合は、fluid (液体) だけではなく、「Khí (気)」によって表現されるメタファー「怒りは容器内の Khí (気) である」がある。

(49) Tức nổ bong bóng. (バブルが爆発するほど怒る) (TN)

(50) Phải nén giận đi thôi. (怒りを抑えなくちゃ／動詞の nén は圧搾するという意味) (HV)

(51) Bùng bùng sát khí. (殺気に満ちた／殺気溢れる) (TN)

例 (49)～(51) が示すように、ベトナム語では怒りは気 (気体＝ガス) のように「爆発する」ことや「圧搾する」ことができる。日本語にも「気が狂う」「気が短い」「彼女に気がある」が表しているように、「気」という概念が存在する。しかし、日本語の「気」は特に怒りを特徴付けるのには用いられないという点でベトナム語の「気」とは異なる。ベトナム語の「気」は中国語の「気」に近く、むしろ中国語から借用したものと言われる³。方 (2009) では、中国語には、「怒りは容器内の熱い流体 (fluid) である」というメタファーではなく、「怒りは容器

内の気 (qi) である」というメタファーが存在することが明確にされた。方 (2009) は、中国の陰陽説に基づき、陰陽対応表 (以下の表2) を作成し、「火は陽に属し、水は陰に属する。つまり、火と水は陰陽の両極にあり、正反対な存在である。怒りを表す火は陽に属し、火によって発生した気も陽に属する。そのため、陰を表す水と、その産物である蒸気とは無縁である。つまり、陰陽説からは、中国語ではなぜ「怒りは容器内の熱い流体 (fluid) である」というメタファーではなく、「怒りは容器内の気 (qi) である」というメタファーを使用しているかが分かる。」と述べた。

表2：陰陽対応表

陽	日	天	火	男	昼	夏
陰	月	地	水	女	夜	冬

ベトナム語には「怒りは容器内の Khí (気) である」というメタファーはこのように中国語から借用したものだと考えられているためか、それについての表現は多く観察されていない。

4.2. その他の相違

日本語は、英語と同じように、「Anger is an opponent (in a struggle). (怒りは、闘いにおいて敵である)」というメタファーが存在している。

(52) 込み上げる怒りと戦う。 (HV)

この概念メタファーから、日本人の、怒りと戦うことによって、怒りをコントロールして、外に表さない姿勢が窺い知れる。そして、日本人はいかに我慢強いかも分かってくる。ベトナム語ではそんな表現がないのは、怒りを爆発させても構わないというベトナム文化に影響されるのではないかと思われる。また、ベトナムの医学では、怒りを我慢しすぎると、

³ Vi Trường Phúc (2012) から引用。原文は「Tiếng Việt vay mượn một vài biểu thức ẩn dụ giận dữ từ ý niệm KHÍ trong tiếng Hán như thành ngữ bùng bùng sát khí, nộ khí xung thiên...」である。

健康に害を及ぼすと古くから考えられており、怒りが生じた以上、爆発させて、外に発散したほうが健康に良いとされている。つまり、日本文化とベトナム文化では怒りに対する態度が違っており、それが言語にも影響を及ぼしている可能性が高いことが分かった。

5. おわりに

人間は共通の身体的経験や生理的反応があるため、世界への共通の認知基盤を持っていると言える。ただし、メタファーの中には、豊富な文化的要素が含まれており、世界への認識は文化の相違によっては違ってくる。本稿の考察結果を通じ、日本語とベトナム語において怒りの概念メタファーは類似性があると同時に、パワーとしての「Khí (気)」と液体の相違が伺える。更に、怒りの扱い方には顕著な相違が見られる。日本語では、怒りをコントロールして、外に表さない姿勢があるのに対して、ベトナム語ではもちろん「Kiềm chế cơn giận(怒りを抑制する)」のような表現があるが、怒りを爆発させても構わないというベトナム文化に影響されるためか、怒りへの我慢は日本文化ほどこだわらない。今後の研究では、「怒り」の表現にとどまらず、「喜び」「悲しみ」「驚き」などの表現における両言語の異同及びその原因を追究していきたい。

参考文献

1. Nguyễn Lân, *Từ điển thành ngữ và tục ngữ Việt Nam*, Nhà xuất bản văn hoá thông tin, 2010.
2. Vi Trường Phúc, *Nghiên cứu thành ngữ chỉ tâm lý tình cảm trong tiếng Hán từ góc độ ngôn ngữ học tri nhận (có liên hệ với tiếng Việt)*, Luận án tiến sĩ, Đại học Khoa học xã hội và nhân văn, Đại học Quốc gia Hà Nội, 2012.
3. Lý Toàn Thắng, *Ngôn ngữ học tri nhận – từ lý thuyết đại cương đến thực tiễn tiếng Việt*, NXB Khoa học xã hội, Hà Nội, 2005.
4. Trung tâm Từ điển học, *Từ điển tiếng Việt*, Nhà xuất bản Đà Nẵng, 2000, pp.1689.
5. Lakoff, George and Mark Johnson, *Metaphors We Live By*, University of Chicago Press, 1980.
6. Lakoff, George and Zoltán Kövecses, “The Cognitive Model of Anger Inherent in American English”, in Dorothy C. Holland, Naomi Quinn ed., *Cultural Models in Language and Thought*, Cambridge University Press, 1987, pp.195-221.
7. Kövecses, Zoltán, “Emotion Concepts: Social Constructionism and Cognitive Linguistics”, in Susan R. Fussell ed., *The Verbal Communication of Emotions: Interdisciplinary Perspectives*, Lawrence Erlbaum Associates, 2002, pp.109-124.
8. エクマン, P. & W. V. フリーゼン (工藤力訳) 『表情分析入門：表情に隠された意味をさぐる』 誠信書房, 1987.
9. 小池清治 『日本語学キーワード事典』 朝倉書店, 1997.
10. 瀬戸賢一 「第Ⅱ部 意味のレトリック」, 卷下吉夫・瀬戸賢一 『文化と発想のレトリック』 (日英語比較選書 1) 研究社出版, 1997a.
11. 方小賛 「日本語と中国語における怒りの表現について」、宇都宮大学国際学部研究論集第 27 号, 2009.
12. 中村明 『感情表現辞典』 東京堂出版, 1993.
13. 『日本国語大辞典』 日本大辞典刊行会編 小学館 1972.12-1976.3.
14. 初山洋介 『認知意味論のしくみ』 研究社出版, 2002.
15. 湯川進太郎 『怒りの心理学』 有斐閣, 2008.
16. 和田秀樹 『「怒り」の政体』, 2010.

(Toà soạn nhận bài viết ngày 20/7/2016, duyệt đăng ngày 10/9/2016)